

おうちで百人一首

ひやくにんいっしゅ

百日後にマスターするわたし

七日目

今日の一首

中納言家持

上の句

鶴の

渡せる橋に

置く霜の

下の句

白きを見れば

夜ぞ更けにける

まめちしき！

3回、
声に出して
よ
読んでみよう！



中・高学年向け

歌の意味

この橋は七夕の夜、鶴という鳥が天の川に渡す橋によく似た形をしています。そこに少しずつ霜が降り始めています。そこに少しずつ霜が降り始めていましたが、橋が真っ白になるほど、もう夜が更けてしまいました。

『万葉集』という和歌集を中心となつてまとめたのが中納言家持。この本には彼の詠んだ歌が四八〇首も収録されています。

八日目の歌は・・・

君がため惜しからざりし命さへ永くもがなと思ひけるかな